

## なぜ、乗務員だけ労働時間削減か？

ダイヤ改正以降、運転士の勤務が車掌と同一行路になったため長時間運転という形になり、しかも一丁半に鳥飼入出庫付きときには疲労度が大幅にアップした。さらにのぞみ号の所要時間短縮も重なり同じ距離を乗務しても労働時間は減り、労働密度は格段に凝縮された。Wトンボに乗っても労働時間が14時間台、短回巡回で歩き回り疲労困ぱいだ。これで労働時間が相殺されてもまったく疲れは取れない。少しでも気を抜いたら責任事故に直結だしね。

労働時間と言えば、前号のかべ新聞で「準備報告時間の削減を許すな」と書いた。会社が詳細な準備報告時間の配分を明かさなから、あくまで想像だが乗務点呼の簡略が要因と思われる。

クル一点呼で入念な打ち合わせを行い、乗務点呼はアッサリだ。特に当直助役は「確認しました・・・」だけだもんな。点呼必要か？

そこで、素朴な疑問がわく。乗務点呼の時間短縮、さらに今まで車掌・運転士の個別の点呼がいっぺんにできちゃって、当直助役は時間持て余していないか？それでも当直助役の労働時間が削減されることはない？乗務員だけ労働時間削減とは納得できない！

**ダイヤ改のたびに乗務員の労働環境は劣悪になっている。現場で働いている私たちが声を発しないととんでもないことになるぞ！**